

# 図書館だより

2月号

## 未来

今年は2月3日が立春、つまり暦の上では春が始まる日です。まだ寒さは厳しいものの、春の訪れを感じる日も少しずつ増えてきます。今年度も残すところ2か月を切り、春からの、そしてもっと先のことに思いをはせることが多くなる時期かもしれません。今月は未来をテーマに本を紹介します。

参考：『理科年表 2025 机上版』国立天文台/編 丸善出版

### 『まだ誰も見たことのない「未来」の話をしよう』

オードリー・タン/語り 近藤弥生子/執筆 SBクリエイティブ 304 円

台湾デジタル発展相（発行当時）のオードリー・タン氏が日本の読者のために語ったインタビューをまとめたもの。「天才」と呼ばれながらもおごることなく、優しい視点で、ITとは機械と機械をつなぐものであり、デジタルは人と人をつなぐものだと言語するタン氏。デジタルを軸とした誰も取り残さない社会の実現に向けて、私たちが「未来」のために「今」できることを考えさせてくれます。



### 『夏への扉』

ロバート・A・ハインライン/著 福島正実/訳 早川書房 933 円

恋人と友人に裏切られ、自分の発明をも奪われてしまったダニイ。失意の底にいる時に「冷凍保存睡眠」で未来に望みをかけ、30年後に行くことを思い付きます。

1956年に発表されたSF小説ですが、2021年にも映画化されるなど、半世紀以上たっても話題にあがる永遠の名作です。



## バレンタインイベントのお知らせ

### 1) 図書委員会企画 謎解きイベント

日時 2/12(水)、13(木)14(金)の 昼休み

場所 奥沢中図書館

※図書委員が考えた謎を解いてください。

正解者には、ギフト引換券をプレゼントします。

※図書館にある本の中にヒントが隠されています。



### 2) バレンタインコーナー

お菓子作りに関する本を集めたコーナーを作りました。

「恋みくじ」をひくことができます。(1人1日1回まで)



※3年生の本の最終返却日は3月7日(金)です。

推理小説を読んでみよう!



### 『そして誰もいなくなった』

アガサ・クリスティー/著

青木久恵/訳 早川書房 933 円

※ミステリ史上、もっとも有名な傑作

### 『ヒポクラテスの誓い』

中山七里/著 祥伝社 913 円

※事件の謎を解剖する

法医学ミステリー

# 読書のとびら

## 世田谷区立中学校ビブリオバトル大会

1月25日(土)に、2024年度世田谷区立中学校ビブリオバトル大会が開催されました。本選で発表された本を紹介します。

### 🏆チャンプ本

『世界でいちばん透きとおった物語』 杉井光/著 新潮社  
亡くなった父親の書いたミステリ小説が行方知れずになります。主人公はひょんなことから遺稿を探すことになるのですが、何者かの妨害が始まります。謎が解けた時、紙の本でしか体験できない感動を味わうことができます。



### \*本選出場本

『家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった+かきたし』  
岸田奈美/著 小学館  
幼い頃に父を亡くし、ダウン症の弟、車椅子の母との日常を描いています。笑って泣ける自伝的エッセイです。



### \*本選出場本

『開幕!世界あたりまえ会議  
私の「ふつう」は、誰かの「ありえない」』  
斗鬼正一/著 ワニブックス  
世界は広い、いろいろな習慣や文化があって当たり前。面白くてためになる1冊です。



### \*本選出場本

『パラドックス13』 東野圭吾/著 講談社  
13時13分13秒、東京から人が消え、13人が残されます。未知の世界で生き抜こうとする人達の強い意志の力と、垣間見える人間の本質を描いたSF的エンターテインメント小説です。



## 〈～本と食をつなぐ～給食コラボ〉

### 図書委員会企画メニュー第一弾!

## 『給食のおにいさん』

遠藤彩見/著 幻冬舎

腕のいいフレンチシェフでありながらも小学校の臨時給食調理員でもある佐々目宗は、美味しい給食を子どもたちに食べてもらおうと毎日、孤軍奮闘しています。そんなある日、1クラス分の給食をのせたままのワゴンが、リフトの中に閉じ込められてしまいます。さあ、このピンチを佐々目はどう切り抜けるのでしょうか。

2/17(月)の献立  
\*ビーフシチュー  
\*フルーツポンチ  
\*コーンのサラダ  
\*ソフトフランスパン  
\*牛乳



## 本にまつわる記念日

### 2月12日は「菜の花忌」

3年生国語の教科書に掲載されている『竜馬がゆく 新装版』(文藝春秋)の作者・司馬遼太郎(1923-1996)の命日です。彼は歴史上の出来事や人物を描いた小説のほか随筆や紀行文も多数執筆し、数々の賞を受賞しました。生前好きだった菜の花や、長編小説『菜の花の沖』(文藝春秋)にちなみ、命日の2月12日は「菜の花忌」と呼ばれます。

参考: 司馬遼太郎記念館、菜の花忌について

<https://www.shibazaidan.or.jp/nanohana/> (参照日 2024.12.23)

本の表紙画像は出版社から許諾を得られたものや、出版社または「版元ドットコム」のWebサイトで掲載可能であることを確認できたものを掲載しています。また、イラスト画像は制作者の利用規約を確認して使用しています。

2025.02Libnet